

# 813へむけ各支部大会を成功させよう



80.12.11  
No. 604

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五六(公衆)四三二(22)七二〇七

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

動労千葉第四回定期大会で満場一致決定された「八一・三ジェット燃料輸送延長をかつてない強固なストライキ体制をもって阻止する」方針は、全国の闘う労働者人民に熱い感動をもつてむかえられている。八一・三闘争が日本階級闘争の進路を決定する重大な闘いであるがゆえに、社会党・総評をも巻きこむ一大闘争へと発展しつつある。これはわが動労千葉一三〇〇組合員が、「ハンドルを握り鉄路を武器に」労働連帯をかけて三里塚ジェット闘争を心血をそそいで闘いつづけてきた路線の正義性と実践力によってかちとられたものである。全組合員のみなさん！ より自信と確信を深め、第四回大会で提起された「八一・三闘争を闘う五つの視点」を打ち固めよう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

八一・三闘争を闘う視点の第一は、三里塚を絶対に勝利させなければならぬという点である。

今日鈴木反動内閣は、体制的危機の延命策を、八一・三三年過程の軍事大国化・憲法改悪攻撃に一切をかけた極めて反動的な攻撃を展開している。この攻撃の基軸的突破口として、日本階級闘争の天王山労働者人民の共闘の砦としてある三里塚闘争を破壊せんがために、二期工事攻撃を強めている。従って今や八一・三三年政治過程を決する最大の闘いとして三里塚が位置しているのであり、いかえれば、この闘いの勝利をもって今日の階級関係の逆転がかちとられるからである。

第二に八〇年代労働運動の戦術的再生をかちとる闘いである。

今日の反動攻勢の激化するなかにあつて、これに対決し、闘いが必要とされている時に、既成労働運動は屈服し、権力・資本の側に身をすりよせる否定すべき現状にある。一方職場で闘う多くの労働者は、この現状に不満をもち新たな流動化と活性化を開始している。

労働運動の戦術的再生の道は、三里塚を基軸にすえた労働運動の実践こそ唯一活路をきりひろくのである。それは八一・三闘争の爆発によって突破口は築かれるのである。

第三に、動労「本部」革マル反動分子を一掃し、動労大改革を実現する闘いである。

「反対同盟と一線を画する」方針をもって三里塚に一貫して敵対する「本部」革マル反動分子は、動労千葉・反対同盟をはじめとするあらゆる闘う人民の敵である。三里塚敵対・水本謀略運動・貨物安定宣言をもって反動の側に転落した「本部」革マル反動分子は、今日に至っては、国鉄三

五万人体制の水先案内人になり下り、その代償として動労千葉破壊を権力・当局に求めるにまで墮落している。八一・三闘争の爆発は、「本部」革マル反動分子を動労から一掃し、動労大改革をより一層前進させるのである。

第四に、軍事大国化―改憲攻撃を打ち破る政治闘争の復権をかけた闘いである。

軍事大国化―改憲攻撃を押し進める鈴木反動内閣の労働運動に対する攻撃のねらいは、既成労働運動指導部の屈服をより助長し、右翼的労働戦線統一を促進し、戦後労働運動を最終的に解体し、産業報国会化を完成させんとしている。この敵の狙いを粉碎する道は政治課題を前面にかかげて闘い抜き、階級闘争の力関係を大きくかえることである。砂川・安保・日韓・ベトナム反戦・三里塚闘争に続く政治闘争の歴史が、その時々々の労働運動の高揚を作り出してきたように、今こそ政治闘争の復権を八一・三闘争をうち抜くなかからかちとらなければならない。

第五に、国鉄三五万人体制粉砕闘争の突破口を築く闘いである。

国労中央が「スト損賠」攻撃の重任にあえぎ、三五万人体制攻撃に屈服し、動労「本部」革マル反動分子は、三五万人体制の先兵と化しているなかにあつて、八一・三闘争の高揚は、国鉄労働者を揺り動かす、三五万人体制粉砕の勝利の展望をきりひろくことは必至である。

全組合員のみなさん！  
この五つの視点をはっきりと確信し、八一・三へ前進しよう。

## ◆支部大会予定◆

- 12・20 千葉駅、勝浦、新小岩
- 12・23 幕張、館山、佐倉
- 12・25 津田沼